



神を信じる私たちにも、気持ちが落ち込む時があります。そんな私たちの気持ちを「慕いあえぎ、渴く」あるいは「うなだれ、思い乱れる」と表現しながら、作者は神に歌っています。

「私は…うなだれています」と神に言うことができるということに深い慰めを感じ、神を信じていることの喜びを感じるのは私だけでしょうか。

① 落ち込むことができるということ

“鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは 神を 生ける神を求めて 渴いています。いつになれば…” 1-

“そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。…」”マタイ26:38

“三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。” マタイ27:46

② 絶望の中でも、神を待ち望むということ

“私はわが巖なる神に申し上げます。「なぜあなたは私をお忘れになったのですか。なぜ私は敵の虐げに嘆いて歩き回るのですか。」私に敵対する者たちは 私の骨を砕くほどに私をそしり 絶えず私に言っています。「おまえの神はどこにいるのか」と。” 9-

“わがたましいよ なぜ おまえはうなだれているのか。 私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。 私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。” 5,11,43:5

③ 自分から出て、イエスキリストのもとに行くということ

“すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。” マタイ11:28

“だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。”ヨハネ7:37

<話し合ってみましょう>

- ・私たちは「喜びとは悲しみのないこと、そして悲しみとは喜びのないことである」と考えがちです。しかしイエスキリストは悲しみのお方であり、喜びの方です。メッセージの中での「私たちは落ち込むことができる」というクリスチャンの姿について話し合ってみましょう。